総合的な学習の時間における実践

前リマ日本人学校　教諭
岐阜県可児市立蘇南中学校　教諭　可　児　寛　之

キーワード：現地理解，学校行事，教科との関わり

１．はじめに

「海外の学校」という言葉から，日本人学校は日本の学校とは違い，何か特別な授業を行っていると思っていた。しかし，リマ日本人学校での学習内容は日本の学校で行うものと変わりはなく，日本の教科書に沿った内容で授業は進められていた。考えてみれば，日本人学校は海外に暮らす日本人が日本に帰国した時に困らないようにすることを目的の一つとして建てられた施設であり，当然のことである。教材や学習環境も予想以上に整っており，一年目には運営委員会の方々の協力もあって，磁石がつく黒板なども整備され，より充実した環境の中で学習することができた。

総合的な学習の時間は，多くの部分が学校に委ねられている時間である。日本でも「福祉」や「平和学習」，「地域理解」などをテーマとし，地域の施設を利用するなどして取り組んでいる学校が少なくない。このことはリマ日本人学校でも同じで，「リマソル」として，リマもしくはペルーに関わる内容について学年ごとにテーマを掲げて学習を進める時間となっている。現地に関わる内容で学習を進めるため，教科以上に現地教材を生かしやすい時間である。さらに，この時間で知ったことや学んだことは，「文化祭」を通して，劇やミュージカルの形で発表することになっている。「文化祭」は10月半ばに行う行事なので，これで総合的な学習の時間が終わるわけではないが，全校で発表する場であり，１つの区切りとなっている。そのため，この「文化祭」に向けてどの学年も内容をまとめていくのである。

２．活動の実際

(1) 一年目の実践

先輩の先生から，総合的な学習で行ってきたことを文化祭で発表するということは聞いていたが，派遣初年度であり，どんな様子なのかイメージすることができず，また，担任した学年も小学部３年生ということで，初めて総合的な学習に取り組む児童ばかりで，正直困った。担任がある程度見通しをもってないと授業が進んでいかないと感じた。

まずはテーマ設定である。一年間通して学習するので，児童の興味・感心を重点においてテーマを決定した。ペルーという言葉からイメージされることをいくつか挙げ，そこから想像されることをどんどん書き出し，まとめながら一つに絞り込んで行った。その結果，ペルーの動植物をテーマとして取り組むことになった。調べ方としては，インターネット，図鑑，現地の人に聞くという方法である。早速，インターネットや図鑑を利用して調べ始めたのだが，どんな動物か特定できない中で，ただ漠然とペルーの動物を調べていくのは難しい。そこで，現地の方々といっても家族や学校の先生，警備員などからペルーにはどんな動物や植物があるのかを聞くことにした。その際，学んだことを生かすために，スペイン語を使って質問するようにした。初めは，質問が切り出せなかった児童も，何人かに聞く中でだんだんと自信を持って質問できるようになっていった。動植物が特定でき，調べ学習もはかどるようになり，その後は順調に活動を進めることができた。

総合的な学習の時間で考慮する点として教科の横断性があげられる。そこで教科との関連について，以下のようにして取り組んだ。

国　語…「すがたをかえる大豆」の学習を生かして資料をまとめ，本にした。また，文化祭に合わせて「たからものを探しに」の単元を先に行うことで，劇の台本とした。

算　数…「ぼうグラフと表」の学習を生かし，ペルーの動植物についてのアンケートを行い棒グラフにまとめた。その際，メールを利用して日本の小学校にもアンケートを行い，リマ日本人学校と比較した。

理　科…テーマ自体が自然ということで理科に関わる内容であるが，さらに「じしゃくのふしぎを調べよう」の単元でのおもちゃ作りにおいて，調べたことを題材にしたおもちゃ作りを行った。

社　会…「わたしの町・みんなの町」で学習したことを生かし，記号を用いてペルーの動植物の分布マップをつくった。

音　楽…３年生から始まったリコーダーを生かし，文化祭の劇の中で演奏した。

図　工…文化祭における背景などの大道具を作成した。

その他…先にも述べたが，学んだスペイン語を使っての調査活動や，パソコンを使っての情報収集，メールでの通信などを行った。

教科との関連を持たせることで，学んだことを生かす場として総合的な学習の時間に取り組むことができた。また，文化祭では，シナリオや大道具など，ほとんど自分たちの力でつくりあげることができ，子どもたちも充実したようである。

【動物分布マップの作成】

＜総合的な学習を終えての児童の感想＞

今までいろんな事を学んできました。アンケートを日本の小学校校６年生や，全校のみんなにとりました。他にも本作りや物語つくりもしました。一番よかったことは調べ学習をして，動植物の紹介の本を作れたことです。一番楽しかったのは調べた動植物の生息地マップみたいな表を作ったことです。

４年生になって，リマソルがあったら調べるものを決めて，調べてまた本にしたいです。他にも物を作ったりサンフランシスコ山にも登ったりしてみたいです。

３年生のリマソルは，とても楽しかったです。どこが楽しかったかというと，みんなと協力して色んな事ができたことです。４年生になっても頑張りたいです。

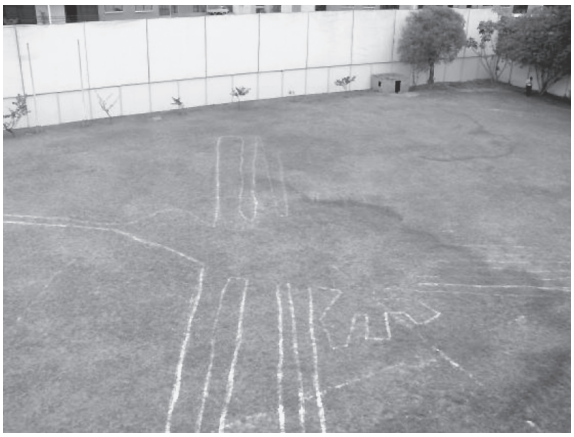
(2) 二年目の実践

二年目も同じく小学部３年生を担任した。昨年度，一年間行っているので，大まかな流れについてイメージすることができ，昨年度よりも余裕を持って取り組むことができたと思う。

テーマ設定については，昨年と同様にして子どもたちからの意見を中心に興味・感心のあることがらをまとめながら設定した。結果，「ナスカの地上絵」をテーマとして取り組むことになった。調査方法もインターネットや書籍を中心に行った。また，教科の関連性についても昨年度を参考に，同じように取り組んだ。

ナスカの地上絵について調べるといっても，何から手をつけていけばよいのか分からないので，まずは，ナスカの地上絵について疑問に思うことをいくつか挙げ，調べることをはっきりとさせた。その上で，インターネットを使っての調べ学習に取り組んだ。さすがに世界遺産だけあってたくさんの情報があったが，逆に多すぎて小学３年生には情報を取捨選択するのが難しかった。そこで，こちらからいくつか資料をピックアップして取り組んだ。一時帰国中に「ナスカ展」に行ったという児童もいたので，その子から資料をかりて，大きさや歴史，種類などについて調べた。また，現地の「国立人類学考古学博物館」にはナスカに関する資料があるということで，見学に出か

＜調べること＞
・地上絵の大きさ
・いつ頃かかれたのか
・誰がかいたのか
・何のためにかいたのか
・どうやってかいたのか
・風で消えないのはなぜ
・地上絵をかいた人たちはどんな生活をしていたのか
・かくのにどれだけ時間がかかったのか
・いくつあるのか
・どうしてナスカという名が付いたのか



【リマ日本人学校の地上絵】

けた。見学の際，博物館の職員が案内してくれたので，話を聞いたり，質問したりしてインターネットだけでは分からなかったことも解決することができた。

いろいろと調べる中で，そのかき方について中学校３年生で学習する相似を利用していることが分かったので，その方法を用いて，実際にグラウンドに地上絵をかいた。子どもたちも意欲的に取り組み，思ったよりもスムーズに描くことができた。屋上から見る自分たちでかいた地上絵は，本物のナスカの地上絵に負けないくらいの感動を子どもたちに与えたと思う。

文化祭では，クイズ形式で自分たちが学習してきたことを発表した。地上絵を守ることに一生を費やした「マリア・ライへさん」や音楽で学習したリコーダーを用いての「コンドルは飛んでいく」の演奏，最近，発見された新たな地上絵などについても発表することができ，充実した発表となった。保護者からも，いい評価をいただくことができ，子どもたちにも自信になったと思う。

(3) 三年目の実践

三年目は小学部６年生を担任することになった。テーマは「ペルーの自然」とし，「なぜリマには雨が降らないのか」という疑問からスタートした。この疑問ついて，インターネットなどを使ってそのまま調べても良かったのだが，小学部６年生ということで，単に調べるだけでなく，考えさせたいという思いがあり，疑問に対する予想，それを確かめるための調査という形で調べ学習を行った。例えば「雨が降らないのは赤道に近いから」という予想を立てた児童は，赤道付近の国々の気候を調べ，その結果から判断するといった具合である。児童は，慣れない方法にとまどいながらも，調べ学習を進めて，自分の考えをまとめることができた。

しかし，リマに雨が降らない理由についての調べ学習だけでは深まりがない。そこで，リマの気候からペルーの気候へと枠を広げることにした。その際，役に立ったのが「コノスカモス・エル・ペルー」という資料集である。これは過去にリマ日本人学校に勤務された先生方が中心となってつくられた本で，ペルーに関する歴史や自然，産業や教育など色々な情報が載っている。もともとは社会科の副読本としてつくられたようだが，改訂を経て，一番新しいものは，大人でも十分に読み応えのある内容となっている。この本には，ペルーの気候についても書いてあり，３つの気候区分があることや，それぞれの特徴について知ることができた。また，３年目になると現地の方々とのつながりもでき，色々な情報を得ることもできる。ペルーに気象庁があることがわかったので，そこを訪れて調査活動を行った。当然，インターネットを使った調べ学習も行った

【気象庁訪問】

が，その中で，「エル・ニーニョ現象」「ラ・ニーニャ現象」といった日本でも耳にしたことがある言葉が出てきた。これらは異常気象の一つと言われており，時に，大規模な被害をもたらす。そのことから，さらに発展させ，地球で起こる異常気象，さらには地球温暖化（環境問題）へと発展させた。

環境問題にまで発展させるのにずいぶんと時間がかかったが，ここから，地球温暖化の現状，それによる被害，世界で取り組んでいることなどを知り，自分たちにできることについて考えることができた。自分たちにできることとして，節電・節水やポスター作りも行ったが，人に伝えることも自分たちにできることの一つということで，文化祭を通して環境問題を伝えるというように文化祭も総合的な学習の一環として取り組むことができた。

３．おわりに

３年というと長いようだが，終わってみると本当にあっという間だった。一年目は生活に慣れることに必死で，先輩の先生方にアドバイスを頂きながら取り組むのみだった。二年目，三年目になって，ようやくゆとりができ，活動の枠を広げることができたと思う。先輩方が使っていた現地の施設を利用したり，新たに自分で現地の施設を見つけたりして活動できたのはよかった。また，リマ日本人学校に通う子どもたちは，素直で意欲的に取り組む子が多く，色々な面で助けられたと思う。リマの子どもたちと一緒に活動できたのは，私にとって大きな思い出であり，財産である。